

# 桐生タイムス

発行所 桐生タイムス社  
桐生市東四丁目5-21 電話0277-46-2511(代)  
〒376-8528 郵便振替00310-5-12247

購読料 1部 80円  
1カ月 1,950円  
お申し込みは ハヤク ヨクヨム  
0120-89-4946

あすの天気  
最高気温 9.0度  
最低気温 3.0度  
詳しい天気は8面に

3月16日 金曜日

## 被災地の産業復興へ

### Tシャツ、タオルで支えた神田さんと牧島さん



大震災から1年を迎えた3月11日、南三陸町を訪れ、小野寺寛さん(左)と言葉を交わす神田篤司さん(中)と牧島正さん(右)

## 水産業支援の仕組み模索

津波被災地の産業復興を手伝おうと、桐生市境野町在住の神田篤司さん(39)―自営業―と牧島正さん(39)―団体職員―が、新たな活動を模索している。昨年7月以來、宮城県南三陸町の市民団体とともに、Tシャツとタオルの販売を通じ

た支援活動を展開。これまでの売り上げの収益分約1000万円が被災地に落ちた。地場の海産物が商店に並ぶなど、復興の兆しは見え始めた。それをどう促進するのか、2人の次の課題だ。

南三陸町にある市民団体「すばらしい歌津をつくる協議会(小野寺寛会長)のオリジナルグッズを桐生でつくり、商品の仕上げと販売を協議会が担当。小さいながらも仕事を生み出し、売り上げの収益分を復興費に充てるというのが支援の仕組み。

基幹産業である水産業が壊滅的な被害を受け、「売るべき商品がない」状況で、自分たちでできる持続的な支援をと、2人がシナリオを描き、繰り返し現地足を運び話を詰め、取り組んできた試みだ。

返信を意味する「R」に、「絆」ありがとうの文字を組み合わせたデザインで、Tシャツ(1枚1900円)、タオル(600〜1200円)、秋以降は長そでTシャツ(2300円)も生産。これまでにTシャツ約8000枚、タオル約4000枚が販売された。今もタオルが動いているという。

売り上げの半分以上、1000万円近くが市民団体側に納まったわけだが、金額的には「思ったほどの貢献ではなかった」と神田さん。「雇用

が生み出せればと思ったが、自分たちで生産した商品でないのと、販売にも力が入らないのでは」と思い巡らす。

今年に入り、現地ではワカメの収穫といった水産業復活の動きが出始めた。「今後はこうした動きを促し、サポートするような仕組みをつくりたい」

グッズが取り持つ新たな縁も生まれた。「埼玉県川口市の観光協会なども支援に協力してくれた」。桐生災害支援ボランティアアセンタリーの協力も大きな支えだ。通い慣れた南三陸町歌津地区で、はぐくんた信頼関係を生かし、自分たちでできる支援を考え、動く。

2度目の春を前に、2人は思索の最中だ。

「売るべき商品がない」状況で、自分たちでできる持続的な支援をと、2人がシナリオを描き、繰り返し現地足を運び話を詰め、取り組んできた試みだ。

今年に入り、現地ではワカメの収穫といった水産業復活の動きが出始めた。「今後はこうした動きを促し、サポートするような仕組みをつくりたい」

グッズが取り持つ新たな縁も生まれた。「埼玉県川口市の観光協会なども支援に協力してくれた」。桐生災害支援ボランティアアセンタリーの協力も大きな支えだ。通い慣れた南三陸町歌津地区で、はぐくんた信頼関係を生かし、自分たちでできる支援を考え、動く。

基幹産業である水産業が壊滅的な被害を受け、「売るべき商品がない」状況で、自分たちでできる持続的な支援をと、2人がシナリオを描き、繰り返し現地足を運び話を詰め、取り組んできた試みだ。

今年に入り、現地ではワカメの収穫といった水産業復活の動きが出始めた。「今後はこうした動きを促し、サポートするような仕組みをつくりたい」

グッズが取り持つ新たな縁も生まれた。「埼玉県川口市の観光協会なども支援に協力してくれた」。桐生災害支援ボランティアアセンタリーの協力も大きな支えだ。通い慣れた南三陸町歌津地区で、はぐくんた信頼関係を生かし、自分たちでできる支援を考え、動く。